

計画の目標 1 支えあいを大切にする組織づくり

計画の展開	① 地区社協の創設				
	地域福祉活動を充実強化するためには、小地域における福祉活動推進のための組織が必要です。市社会福祉協議会では、地区社会福祉協議会（地区社協）の設立を推進するため、設立のための支援や関係団体等との連絡調整を行います。平成24年度までに、市内全10地区の組織化を目標とします。				
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	△	☆	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	○これまでの取り組みと成果 地域福祉懇談会や地区社協設立準備委員会等を開催し、6地区において地区社協が設立された。また地区社協連絡会を設け、他地区の情報を共有し、地区社協の支援につながった。 西江地区、大江地区においても設立準備委員会が立ち上がり、開設に向けて準備が進んでいる。 吉里地区・今尾地区・海西地区は平成22年3月設立。 高須地区は平成22年4月設立。 石津地区は平成23年1月設立 下多度地区は平成25年1月設立。				
	○事業実施上の検討課題・問題点 設立された地区社協には、市社協としての支援を強化する。 設立されていない地区においては、住民の理解を得られるまでの説明の機会が不足していた。 区長・自治会長へ地区社協の理解をしていただく、説明会が不足していた。 地区の特性をよく知らないまま地区社協の話に入った。 地区の課題を検証する機会を持たなかった。 地区社協の活動がよく理解されていない現状がある。				
課内評価	○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか） 地区懇談会を開催し、地区の現状を把握する。課題を明確にすることで、地域の方が取り組みやすい環境づくりに努めます。 5年後、10年後この地区をどうしたいか、それにむけてどんな行動を起こしたらよいか問いかけていく。 全地区において地区社協の設立に向けた支援を行う。 区長や自治会長への説明だけでは不十分であるので、区・自治会へ出向き説明会を行う。				
	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
評価委員	○				
	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
	○				

表の見方

【実施年度のマークについて】

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の展開	② 自治会活動との連携強化				
	自治会活動は、福祉活動と深い関係があり、自治会活動の充実発展は、地域福祉活動の充実発展につながるものです。社会福祉協議会は自治会活動との連携強化をすすめ、地域福祉の増進に努めます。				
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	☆	→	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	○これまでの取り組みと成果 近隣助け合いネットワーク事業を通して各自治会内で取り組み、市社協としても活動の把握や自治会との連携につながった。				
	○事業実施上の検討課題・問題点 近隣助け合いネットワーク事業に参加しているところが少ない。 会費の使われ方についての説明・周知が不足していた。				
	○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか） 自治連合会とは常に連絡を密にしていく必要がある。積極的に自治会等へ足を運び、社協の事業について説明を行い理解してもらうよう努める。 会費の使われ方の説明を含め、近隣助け合いネットワーク事業に理解を深めていただくことが必要である。 近隣助け合いネットワーク事業の未実施先にもっと必要性を理解していただくよう働きかける。				
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
	○				
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
	○				

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の展開	③ 地域組織・団体のネットワークの形成				
	地域には様々な団体や役職があり、それぞれに素晴らしい活動をされています。地域活動の充実発展のため、地域の中で活躍する人々が相互に連携を深めることができるよう支援します。				
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	☆	→	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	○これまでの取り組みと成果 地区社協連絡会を設け、それぞれの地区社協が事業の推進について意見交換し、地区社協間相互の連携を深めることができた。 地区社協未設置地区において、設立準備委員会を設け各種団体に参加していただき、それぞれの活動を話し合っ地区の連携を図った。				
	○事業実施上の検討課題・問題点 地域の状況を社協がしっかり把握することができなかった。				
	○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか） 区長・自治会長、民生児童委員、福祉推進委員、老人クラブ等の方々に参加していただき地区内の調整や課題についての協議ができる連絡会の設置を進める。				
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
		○			
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
		○			

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の展開	④ 災害時の支援体制づくり			
	<p>災害時には隣近所が助け合い、被害を最小限にとどめるよう協力し合う必要があります。市では災害に備えて、「海津市地域防災計画」を定めていますが、この計画や市の地域福祉計画に基づいて、市と協働し防災訓練や自主防災組織の充実、要支援者の確認など日ごろからの取り組みに努めます。</p>			
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画			
	20年度	21年度	22年度	23年度
成果・問題点・今後の方針等	<p>○これまでの取り組みと成果</p> <p>民生児童委員に協力いただき、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯の要支援者台帳を作成し、要支援者の把握に努めた。また、福祉推進委員会において民生児童委員と合同で見守りマップを作成。見守り体制強化と共に、災害時における要支援者の支援体制に努めた。</p> <p>災害ボランティア養成講座を開設し人材育成に努めた。また、災害ボランティア登録制度を設け、有事の際には協力を得られる体制づくりをした。</p> <p>市の防災課と連携し防災訓練の日に災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を行った。</p> <p>○事業実施上の検討課題・問題点</p> <p>要支援者台帳や見守りマップに出てこない要支援者の把握がされていない。 地域で災害時要支援者の避難を支援する体制が整っていない。</p> <p>○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか）</p> <p>災害時要支援者台帳と要支援者台帳を共有化できるように市に働きかけ、支援のありかたについて連絡会を開催する。</p> <p>市民の方と共同で、災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を行い、防災に関心を持っていただくと同時に協力体制を構築していきたい。</p>			
	☆	→	→	→
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止
		○		
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止
	○			

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の展開	⑤ 医療体制の充実				
	<p>海津市内には小児科や産婦人科医などの専門医が少なく、不安を感じている市民の声が、今回の計画策定の段階で多く寄せられました。市民が安心して暮らせる医療体制について市民として考え、提言していきます。</p>				
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
		△	☆	→	→
成果・問題点・今後の方針等	<p>○これまでの取り組みと成果 「策定員会から行政への要望」として救急時の医療に対応する医療機関のネットワークづくりを挙げた。</p>				
	<p>○事業実施上の検討課題・問題点 社協で医療体制の充実を図る事業を実施することは困難である。 市内の医療体制に関する情報の共有が図れるようにする。 既存のサービスや地域のしくみだけでは解決できない問題。</p> <p>○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか） 要望など解決のしくみづくりに向けた協議の場づくりが必要。 市内の医療体制に関する情報の把握及び収集ができるように努める。 行政・地域住民と協働して解決していくしくみを新たにつくる。 引き続き要望があれば市へ提案していく。 社協としての取り組みは難しいので廃止とする。</p>				
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
				○	
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
			○		

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の目標

2 安心して暮らせる地域づくり

計画の展開	① 地域福祉懇談会の開催				
	<p>小学校区を基本単位として、地域の福祉課題解決のため意見交換を行い、課題解決のための方法や活動について話し合いをすすめます。懇談会では、地区の必要に応じて研修や情報交換を行います。</p> <p>平成22年度までに、市内全10地区で開催することを目標とします。</p>				
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	☆	→	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	○これまでの取り組みと成果				
	<p>6地区の地区社協と2地区の地区社協設立準備委員会の活動のなかで地域福祉活動が行われた。</p> <p>様々な職域の方から意見をいただき地域の福祉課題や解決方法など話しあった。</p>				
	○事業実施上の検討課題・問題点				
	<p>懇談会で話し合われた地域課題が、その場限りになっており、解決につなげていく支援ができていない。</p> <p>地区懇談会が開催されていない地区がある。</p>				
	○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか）				
	<p>区長・自治会長、民生児童委員、福祉推進委員、老人クラブ等の方々に参加していただき課題についての協議・行動・評価ができる地区懇談会の設置を全地区にすすめる。</p>				
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
	○				
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
	○				

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の展開	② 地域の見守り・交流活動の推進				
	地域の輪が広がっていくためには、お互いが交流することが必要です。世代間のみでなく、同世代も含め交流をすすめていきます。地域の輪の中で、誰が誰を見守るという枠にとどまらず、お互いがお互いをさりげなく見守りできる関係づくりをすすめます。				
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	☆	→	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	○これまでの取り組みと成果 福祉推進委員による見守りメッセージ訪問事業を行った。ボランティアによる手紙と共に熱中症対策用のお茶を、ひとり暮らし高齢者と高齢者世帯に手渡して配った。 近隣助け合いネットワーク事業を通して世代間交流が図れている。また、高齢者ネットワークとして、ふれあいいきいきサロンの設置数も増加している。				
	○事業実施上の検討課題・問題点 近隣助け合いネットワーク事業や、ふれあいいきいきサロン活動の担い手が不足している。 地域の見守りを住民全体で行えると良いが、現実には民生児童委員や福祉推進委員の見守りが大半である。 社協の事業に限らず、新たに始める事業自体を負担と考えている自治会があり、住民同士のつながりが弱くなることを懸念している。				
	○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか） 継続的に地域交流活動が展開されるよう、地域福祉活動の必要性を地域に呼びかける。 見守り活動ができなくても、異変があったら民生児童委員や福祉推進委員へ相談や報告ができるような体制づくりを進める。 行政や消防団等各機関との対象者名簿の共有を目指す。 地区社協の推進事業として取り上げていただく。				
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
		○			
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
	○				

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の展開	③ ボランティア・市民活動の推進			
	<p>ボランティア活動者の充実が市民が安心して暮らせる地域づくりにつながります。ボランティア活動を幅広くとらえ、福祉分野のみでなく、環境や国際問題に対する活動など様々なボランティア活動を支援します。さらには、自治会活動や各種団体の社会活動を「市民活動」としてとらえ支援します。</p>			
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画			
	20年度	21年度	22年度	23年度
	☆	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	<p>○これまでの取り組みと成果</p> <p>広報を通して、ボランティアをより身近に感じられるように情報を発信した。研修や講座を通してボランティア活動の環境や機会をつくった。ボランティア団体や個人ボランティアに対し側面的な支援を行い、自主的な活動やネットワーク化を促進した。</p> <p>東日本大震災で多くのボランティアが現地へ向かった。ボランティアの存在意義は広く周知された。</p>			
	<p>○事業実施上の検討課題・問題点</p> <p>実際にボランティア活動希望者がどこに相談していいのかわからない。 ボランティアコーディネーターの強化がされていない。 市民活動を行っている団体を把握していない。</p> <p>○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか）</p> <p>住民、ボランティア団体に向けた効果的な情報を提供する。 ボランティアや市民団体、関係機関で構成する連絡会を設け連絡を図っていく。 市民活動に関する支援体制を整える。</p>			
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止
		○		
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止
	○			

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の展開	④ 総合相談活動の充実				
	身近に相談できる人がいることは、安心して生活を送るためには、重要なポイントです。どこに相談したらいいかわからない人が気軽に相談ができる相談窓口づくりをすすめるとともに、相談窓口の広報に努めます。				
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	☆	→	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	○これまでの取り組みと成果 総合相談として身近な困りごとを解決するために窓口の設置を行っている。 民生児童委員との巡回相談で、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯に訪問し相談に乗っている。				
	○事業実施上の検討課題・問題点 相談者が相談しやすい環境が不十分である。 相談内容が多様化し十分な体制がとれていない。 広報不足によりどこに相談していいかわからない。				
	○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか） 住民や支援者が、誰に・どこに相談したらいいのかわかるように情報を社協だよりに掲載する。 地区社協においても総合相談的な窓口となり、専門機関へのパイプ役として機能する体制づくりに取り組む。				
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
		○			
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
	○				

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の展開	⑤ あいさつ運動の充実				
	あいさつは人と人をつなぐ架け橋です。コミュニケーションの基本として、あいさつを家庭の中から、地域の中へ広げ、誰とでも気軽にふれあえるように地域交流と人間関係づくりをすすめます。				
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	☆	→	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	○これまでの取り組みと成果 石津地区社協が行っているスクールボランティア事業を通して、児童のあいさつ運動の推進を行っている。この事業は地域交流にもつながっている。 高須地区社協においても、地域全体でお互いにあいさつできるようなまちづくりを目指すとして推進に取り組んでいる。 地区社協を中心に推進を図った。				
	○事業実施上の検討課題・問題点 あいさつをすることによって生まれる効果を再認識することが必要。				
	○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか） 地区社協の実施事業として取り組んだ方が、効果があがっているので、事業に位置づけていきたい。 学校とも良く連携し、あいさつの推進を働きかける。 地域のなかで顔の見える関係づくりに取り組むため、近隣助け合いネットワーク事業を推進をする。				
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
		○			
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
	○				

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の目標

3 美しく住みやすい環境づくり

計画の展開	① 公共交通機関の整備と利用の促進				
	<p>高齢者や障がい者、児童などに限らず、市民にとって移動手段の確保は暮らしを支える大切な事柄です。市内にある、巡回バスや養老鉄道などの利用促進運動を支援します。また、市民の声を反映し公共交通機関が利用しやすくなるよう提言します。</p>				
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	△	☆	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	○これまでの取り組みと成果 「策定委員会から行政への要望」として「市営バス（巡回バス・広域バス）を二コースに即した運行に」を盛り込んだ。				
	<p>○事業実施上の検討課題・問題点 通院・買い物難民と呼ばれる車の乗れない高齢者の移動手段を求める声が多くなっている。 病院や買い物に公共交通機関を利用したとしても時刻表が合わず、一日がかりとなることもよくある。 買い物の場合、帰りの荷物が持てなくて困っている声を聞く。</p> <p>○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか） 地区社協やボランティアのマンパワーを活用し、移送サービス立ち上げに支援を向ける。 地区社協として移送サービス・移動支援サービス・買い物支援サービスといった地域の支援のあり方を研究する。 既存のサービスや地域のしくみだけでは解決できない問題であるので、行政・地域住民が協働して取り組む。</p>				
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
			○		
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
	○				

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の展開	② 環境美化活動の推進				
	市内では、ゴミが捨てられていたり、不法にゴミが投棄されたりしているのが散見されるなど、環境の悪化が懸念されています。美しいまちを守るため、市民による環境美化活動を推進します。				
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	☆	→	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	○これまでの取り組みと成果 地区社協に環境部会を設置し、地区の環境保全に努めた。 環境美化活動を行うボランティア団体の側面的支援を行った。 地区の防災訓練時に自宅から集合場所までの間を、ゴミ拾いをしながら目的地に参集した。 市の環境衛生課と連携しゴミの分別も行った。				
	○事業実施上の検討課題・問題点 ゴミ拾いだけで事業を行うと参加者は少ない。				
	○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか） 環境美化に努める地区社協やボランティア団体の側面支援を行い、広報等で取り上げ住民への意識づけとしたい。 地区社協の活動のなかに、ゴミ拾いも兼ねて行うと楽しみながら参加できる。 市の環境衛生課とも連携し活動に取り組みたい。				
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
		○			
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
		○			

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の展開	③ マナー向上策の展開			
	<p>同じ地域に住むもの同士が、お互いに生活をする上で守るべきマナーがあります。近頃はマナーについての理解が希薄になり、ゴミ出しやペットの飼い方など、近所迷惑につながる問題が起こっています。今一度、マナーについての認識を新たにすマナー向上策を推進します。</p>			
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画			
	20年度	21年度	22年度	23年度
	☆	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	<p>○これまでの取り組みと成果 地区社協で懇談会を行った。 地区社協であいさつ運動を行った。</p>			
	<p>○事業実施上の検討課題・問題点 近隣とのコミュニケーション不足、つながりのなさがトラブルを招いている。</p>			
	<p>○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか） 近隣とのコミュニケーション、声かけ、あいさつを基盤としマナー向上を目指す。 地区懇談会の場で、マナーや人との関わりについての話し合いを行い、理解を求める。</p>			
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止
		○		
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止
		○		

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の目標

4 心豊かにふれあう人づくり

計画の展開	① ボランティア・市民活動者の育成				
	地域福祉活動をすすめる上で、ボランティア・市民活動者は、欠かすことのできないものです。福祉分野に限らず、社会活動を行う人が増えることは、地域の活性化につながります。広報活動を充実し、講座を開催するなどして、ボランティア・市民活動者の育成に努めます。				
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
	△	☆	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	○これまでの取り組みと成果 ボランティア講座を開設し、ボランティア活動の新たな担い手の発掘や育成を行った。 社協だよりを通して、ボランティアに関する情報を発信した。 ボランティアリーダー研修会を開催し、団体代表者に対して新たな情報収集や知識を身につけていただいた。				
	○事業実施上の検討課題・問題点 市民のニーズにあった講座内容が実施されているか検討する。 福祉分野以外の社会活動、市民活動を対象とした養成講座の開催がない。 講座に計画性がない。				
	○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか） 地域に根づくボランティア・市民活動を育成するため、ボランティアニーズの把握に努める。 活動が多様化しているため各関係機関との共同開催も検討する。 初心者・経験者コースなどを開催し、連続的で計画的な講座を実施する。 講座や研修会後のフォローの徹底を図る。				
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
	○				
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
	○				

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の展開	② 福祉教育の充実			
	<p>海津市内のすべての学校は、福祉協力校として福祉教育の推進に取り組んでいます。これからは、学齢期における教育を充実させるとともに、成年期についても、学習機会の確保、必要な情報提供をすすめ、福祉教育の充実に努めます。</p>			
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画			
	20年度	21年度	22年度	23年度
	☆	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	<p>○これまでの取り組みと成果 市内の15校を福祉協力校に指定し、学校での福祉教育を側面から支援した。 各種ボランティアスクールを開催した。 学校への出前講座を実施した。 全学校に福祉標語の募集を行った。 福祉教育のあゆみ「ふれあい」を発行した。</p>			
	<p>○事業実施上の検討課題・問題点 小中高と一貫した福祉教育が確立していない。 各学校の学習方針が違うため、活動に差が出る。 児童を対象とした内容に偏りがある。 ボランティアスクールと学校における福祉講座の内容が重なる。</p> <p>○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか） 先生を対象とするボランティアコーディネーター養成講座の開催。 福祉担当の先生同士が情報交換できる場をつくる。 教育委員会との連携が必要。 家庭、地域を対象とした福祉教育の実施。 青年期にもボランティアができる体制をつくる。</p>			
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止
	○			
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止
	○			

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の展開	③ 住民自治意識の向上			
	自分たちの地域を良くするためには、そこに住む人々の協力が必要です。地域の活動に積極的に参画をし、地域住民みんなが主役となるまちづくりができるよう、自治意識の向上を促します。			
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画			
	20年度	21年度	22年度	23年度
	☆	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	○これまでの取り組みと成果 地区社協の設立、設立準備によって地域住民の福祉に対する意識の向上を図った。			
	○事業実施上の検討課題・問題点 社協として共助に対する話し合いの場が提供できていない。 地区社協の懇談会を行うにあたり、若い方への呼びかけができていない。			
	○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか） 地区社協の懇談会で、地域の課題に対しどのように関わっていくのかを話し合い、住民一人ひとりが意識を高める。 若い世代にも地区社協に参加していただくよう呼びかけを行う。			
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止
		○		
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止
	○			

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の展開	④ 福祉情報の提供と共有化			
	地域福祉活動を行うときに、プライバシーや個人情報保護に十分配慮をしながら、必要な情報を必要な人に提供し、共有化できるよう努めます。			
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画			
	20年度	21年度	22年度	23年度
	☆	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	<p>○これまでの取り組みと成果</p> <p>高齢福祉課の高齢者台帳と社協の要援護者台帳の共有化ができた。 民生児童委員との巡回相談を実施し、必要な情報を台帳で管理し共有化の同意も得た。 福祉推進委員へひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯の名簿を提供した。 友愛ふれあいカードの共有を行った。 福祉推進委員が民生児童委員と共同で見守りマップの作成を行った。</p> <p>○事業実施上の検討課題・問題点</p> <p>見守り体制を整備するにあたり、個人情報の取り扱いを民生児童委員以外の自治会長や近隣ボランティア、消防団へどのような形で提供していくか。</p> <p>○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか）</p> <p>要援護者に了解を得て、支援者（見守る人）に必要な情報を提供できるように研究する。 支援者（見守る人）に対して、個人情報の取り扱いには十二分に注意されるよう特にお願ひする。 地区社協へ情報提供をするとともに、個人情報保護と守秘義務を徹底する。 社協の福祉ガイドマップの作成を行う。</p>			
	課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止
		○		

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。

計画の展開	⑤ 生涯学習活動の推進				
	生涯学習によって得られた知識・技術を社会に還元することは、大変意義深いことで、地域社会の発展に大きく寄与するものです。生涯学習活動が社会活動につながるよう支援します。				
実施年度	○第1次地域福祉活動計画実施計画				
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
		☆	→	→	→
成果・問題点・今後の方針等	○これまでの取り組みと成果 いきがい通所支援事業として、様々な教室を設定し高齢者の生きがいづくりを行っている。 日本語教室や車いす修理、おもちゃ修理など、今まで培ってきた技術を活かしたボランティア活動がある。				
	○事業実施上の検討課題・問題点 いきがい通所支援事業の新規参加者が少ない。 個々の特技や得意分野は把握されていない。				
	○検討課題・問題点をふまえた今後の取り組み（どのようにしたいか） 広報以外のPR方法を検討する必要がある。 講座の内容が固定しているので、多方面の講座開設も検討する必要がある。 生涯学習課とも連携し講座の内容を協議していく。				
課内評価	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
		○			
評価委員	A 拡充	B 現状維持	C 見直す	D 廃止	
		○			

☆印は実施する年度、△印は実施のための準備・検討を表しています。